

栄町の歴史

第2号



栄町の歴史

第2号

本誌が本日の式典会場となっております。ふれあいプラザと
世紀を展望するまちづくりを進めるために、
ですが、今年度第一次が年計画の
はめておるところであります。
を先んずきたいとて、
、町民の生活、
より、

栄町の歴史

昭和四十年



〔特別掲載〕

栄町町制施行四〇周年記念式典式辞

本日ここに、栄町町制施行四〇周年記念式典を挙行いたしましたところ、千葉県知事を始め来賓各位におかれましては、公私共に御多忙のところをお繰り合わせのうえ多数御臨席を賜りまして厚くお礼申し上げます。

さて、わが栄町は、昭和三〇年に旧安食町と旧布鎌村が合併し、栄町として町制を施行してから今年をもって満四〇年を迎えることとなりました。この間、国・県など関係各方面の格別の御指導、御援助により大きく発展を遂げることができたところであります。一時期一人を割り込んだ人口も、昭和四七年に基本構想を策定し昭和五二年に都市計画決定を行い、東京から四五キロメートル圏という地の利を生かして計画的なまちづくりを積極的に進めてまいりました結果、現在では、二万六千人を超えるに至っております。

また都市計画の進捗に合わせて積極的に上下水道の整備、小中学校の整備、町道の拡幅・延長、運動公園の新設などの都市基盤の整備に努め、更に建設省のスーパ―堤防事業と連動して矢口工業団地の造成に取り組むなど、近代的な都市と豊かな自然との調和を目指す「水と緑の田園観光都市」の実現に向けて努力を傾けてまいりました。こうしたまちづくりの一つの到達点が本日の式典会場となっております「ふれあいプラザさかえ」でございます。

栄町では、平成二年に、二一世紀を展望するまちづくりを進めるために、平成二二年の計画人口を五万人と設定する基本計画を策定したところでありますが、今年度第一次五か年計画の最終年度を迎えましたので、その成果を踏まえ、現在新たな五か年計画の準備を進めておるところであります。日本経済がかつて経験をしたことのない困難な状況を迎えている今日、当町も大きな影響を免れないところではあります。栄町はまだまだ発展途上の町であり、整備しなければならぬ施設も少なくありません。町民の生命・財産を守るために昨年設置した常設消防本部の新庁舎については、防災の拠点として、新築する必要があり、また高齢化社会を間近に控え、町民の健康と福祉の拠点と

しての複合施設である保健福祉センターなどの建設は、次期五か年計画の中において優先的課題として取り組んでいく所存であります。

その他商業の振興、成田線複線化の実現、第二栄橋の架橋と町内交通網の一層の整備、そして印旛沼の総合開発の推進等広域的な視点から取り組まなければならない課題も山積しております。

私が町政を担当させていただいて以来二四年にわたり、諸先輩、町議会、国・県御当局の御援助、御教示、そしてなによりも町民の皆様から寄せられました暖かい御支援、御厚情は、身に余るありがたいものがございました。今後とも町政の将来を見据え、これらの諸懸案の解決のために全力を傾注する覚悟でございますので、倍旧の御支援、御協力をお願い申し上げます。

私は町制四〇周年の意義は過去の歩みを振り返ることではなく、来るべき次の世代にどのような町を伝えていくかを考えることであろうと思います。我が国が経済的にも政治的にも大きな変革期を迎えている中で、私たちは、かつて先人の経験したものとは、異なった厳しい試練に直面しておりますが、この試練を乗り越えて明日の栄町の進むべき道を切り開いていくことこそ、私たちに課せられた大きな使命であると考えます。

終わりに臨み、今日まで町勢伸長に多大な貢献をされました先輩各位、町民の皆様御熱意と御協力に深い敬意と感謝の意を表し、この機に更に融和と団結の意識を高め、二万六千町民が一体となって、ゆとりと潤いのある、豊かな郷土をつくるために、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます、皆様御多幸を祈念し、式辞といたします。

平成七年一月二六日

栄町長 藤江 恭

栄町の歴史——第2号

目次

□栄町町制施行四〇周年記念式典式辞

栄町長 藤江 恭

□歴史随想

●利根川河川改修工事と変遷

田代源之助……………53

□研究論文

●山田家住宅旧主屋解体に伴う調査報告にあたって……………7

●山田家旧主屋取り壊しに伴う建築調査

山田 和夫……………8

●山田家旧主屋取り壊しに伴う地下遺構調査

高谷 英一

喜多 裕明……………22

●屋根裏からの報告

—山田家旧母屋取り壊しに伴う守札調査概報—

小林 稔……………35

□栄町四〇年のあゆみ

……………124

□町史編さんの記録(2)

……………63

【表紙の窓】刻書(こくしょ) 土器 栄町大畑(おおばたけ) I-13 遺跡(龍角寺地区)出土。埴生郡衙(はにゅうぐんが) 推定地の掘立柱建物跡群。古墳時代の末期頃の土師器盤(はじきばん)と思われる。赤彩が施された内面に「樹木・人物・区画された溝ないし道?」が表現されているように観察できる。
(財印旛郡市文化財センター提供)

研
究
論
文

SAKAE MACHI NO REKISHI

The history of Sakae town

No. 2

March 1996

CONTENTS

Sakae town 40th anniversary ceremony addressFUJIE Kyo

Articles

Investigation on the structure of the former Yamada family residenceYAMADA Kazuo

Archaeological survey of the former Yamada family residenceTAKAYA Eiichi & KITA Hiroaki

A report from the attic: *Mamori-fuda* in the former Yamada family residenceKOBAYASHI Minoru

Occasional History

Changes and improvements of Tonegawa riverTASHIRO Gen'nosuke

Progress of the project (2)

40 years of Sakae town: 1955-1995

SAKAE MACHI

(Sakae Town History Compilation Committee)

●山田家住宅旧主屋解体に伴う調査報告にあたって

今回の調査報告は、民家解体に伴う緊急調査についての概報的な性格のものである。しかしながら、考古学的観点から基礎部分以下の地下調査を行えたこと、民俗学的観点から神札・護符の分析をいただけたことから、まとまったものとなった。今後、襖下張り文書及び、同家所蔵文書の分析を行いより総合的ものとする。

平成四年一月七日に山田和夫氏（千葉県立房総のむら）、社会教育課、町史編さん室で調査について打ち合わせを行い、その後一〇日、一六日、二三日と回を重ね、社会教育課扱いで、栄町民家の解体新築工事に伴う民家文化財調査という委託事業を行うことになった。調査内容は、建築状況等調査記録、地下調査記録とし、栄町民家資料調査会を組織して、会長に濱田正士氏（国立歴史民俗博物館教授）、調査員に山田和夫氏、高谷英一氏（財団法人印旛郡市文化財センター）、喜多裕明氏（同）をお願いして、二月一日から正式に調査を開始した。

既に、山田氏により植野英夫氏（千葉県立房総のむら）の協力を得て、建築調査については先行されていた。そし

て二月三日に、襖下張り文書（建具を含む）、一〇日に、屋根裏が上がっていた神札・護符などを収集保管することができた。また、一三日には、濱田会長の調査視察をいただいた。

地下調査については、数回の打ち合わせを行い、調査方法について検討した。基礎石を残して主屋を解体除去した後、二月二五日の午後に、環境整備作業を喜多氏、谷口裕恵氏、社会教育課、町史編さん室で実施して調査前全景写真を撮り、調査区の設定を行った。さらに二六日に、環境整備作業と平面図の作成を、青木明美氏の協力を得て開始した。詳細は、後述されているが、三月二日午前に、社会教育課、町史編さん室で埋め戻し作業を行い、機材を撤収して現場の作業を終了した。

神札・護符についての調査は、平成四年一二月七日に、民俗部会調査の一環で小林稔氏にご指導いただきましたがカード化する作業を開始した。町史編さん室において主に谷口氏が、個体の電子複写及び、カード化の作業を実施した。

最後になってしまいましたが、工事行程の遅延にもかかわらず、全面的に調査にご協力いただきました山田俊彌氏ならびにご家族の皆様には厚くお礼申し上げます。

凡 例

- 1 この年表は、原則的に昭和30年12月1日を基準日として、平成7年12月1日までを対象とした。
- 1 この年表は、年月日・栄町関係事項・(説明事項)の項目順に叙述した。
- 1 栄町関係事項は、「広報さかえ」(昭和39年9月1日創刊)を中心に、行政文書(「合併事務局日誌」、「議会議事録」など)・行政資料(『栄町勢要覧』、『栄町学校教育要覧』など)のほか、「町村合併日誌(安食町分)」(須賀新田・浮嶋芳次郎家文書)などを参考に収録した。
- 1 項目の記載は、年月日の順に列記し、期日の不明なものは「その月」の最後に配列した。

ただし、議会は開会日を記し、会期は表現しなかった。
- 1 この年表は、「広報さかえ」を中心に編集した関係で、昭和39年以前について、特に民間的な記事が不足している。今後も資料収集を推進し、より充実したものとしたい。

なお、栄町町制施行40周年企画「町誕生の経緯をたどる」(「広報さかえ」No.414・418・424・426)を参照していただきたい。
- 1 この年表の編集は、町史編さん室が担当した。

■昭和28(1953)年

- 9月1日 町村合併推進法公布(3ヵ年の時限立法)
- 9月11日 (布鎌村)合併促進委員会設置
- 12月20日 (安食町)合併促進委員会設置

■昭和29(1954)年

- 1月18日 (本埜村・安食町・布鎌村)三ヶ町村合併促進協議会設置
- 2月28日 安食町議会臨時会 境界変更(興津区)
- 3月30日 豊住村大字興津の区域を安食町に編入(3月12日付千葉県指令地217号)

■昭和30(1955)年

- 10月7日 安食・布鎌両町村合同の促進委員協議会開催(安食町役場)
- 10月10日 合併事務局設置(安食町役場)
- 11月8日 第1回合併協議会開催
- 11月10日 第2回合併協議会開催(旧町村名用いない)
- 11月14日 第3回合併協議会開催(新町名決定「栄町」)
- 11月17日 安食町・布鎌村議会臨時会 町村の廃置分合の処分を知事に申請することについて、新町建設計画の策定
- 11月24日 昭和30年11月臨時千葉県議会議決 町村の廃置分合(千葉県指令地901号)
- 11月30日 布鎌村酒直を布鎌村布鎌酒直に字の名称変更
- 12月1日 栄町誕生、安食町及び布鎌村を廃しその区域をもって栄町を設置する(総理府告示第1509号、町村の廃置分合)
栄町職務執行者に浮嶋宏之助氏就任
栄町議会初議会(栄町役場)初代議長に春藤順太郎氏・初代副議長に斉藤忠均氏就任、議員数34名
初代収入役に後藤正男氏就任
開庁式挙行(安食小学校)
- 12月15日 栄町議会臨時会県の境界にわたる町村の境界変更(出津区)

■昭和31(1956)年

- 1月1日 境界変更により茨城県稲敷郡河内村大字龍ヶ崎町歩(の内一部)、大字生板鍋子新田(の一部)区域を栄町に編入(12月29日付総理府

栄町四〇年のあゆみ

1955 - 1995



編集後記

栄町も誕生から四〇年が過ぎました。本書を読まれた方の中には「あの頃はこうだったな。」とか、「そういえばこんな人たちと一緒に仕事をしたな。」などと頭の中に思い出が巡る方々もおられると思います。しかしながら、現在においては合併当時の記録も散逸しつつあり、また、当時の担当者の記憶も薄れつつあります。そのような記録を年表にして作成するにあたり今一度、議会議事録・広報を読み返してみると、今後の参考とすべき点が多々ありました。これを先人からの大切な贈り物と捉え、この経験を生かして尚一層すばらしい町を築かなければと、意を新たにしました次第です。

町の北側を流れる利根川は、古来から多くの恵みとともに不幸をももたらしたようです。田代氏の原稿の中には改修工事についての経過が淡々と綴られています。その内容を読んでも言葉のはしはしに当時の人々の苦勞をうかがうことができます。このような当時の記録については、数が少なく、この文章のように改修に伴う家屋等の移転問題など具体的な事例の紹介は、栄町の現代史を語る上で貴重なものだと思います。

山田家の調査当日は寒さが厳しく調査員の方々にはご苦勞をおかけいたしました。また、山田さんの方から暖かいお茶をごちそうになり、心も体も暖まることができました。この場を借りて重ねて御礼申し上げます。

これからもこのような本を作成していきますので、資料調査の際には、皆さまのご理解ご協力をお願いいたします。

栄町の歴史——第2号

平成八年三月三十一日 発行
編集 栄町史編さん委員会
発行 栄町

〒二七〇一五
千葉県印旛郡栄町安食台一―二
TEL 〇四七六(九五)一一二一

印刷 第一法規出版株式会社

東京都港区南青山二―十一―十七

